

安全研会報

平成26年2月

全国学校安全教育研究会 会報 NO.3
東京都学校安全教育研究会 会報 NO.38

発行 全国学校安全教育研究会
会長 井口信二
事務局 葛飾区立花の木小学校



自ら危険を予測し、回避できる能力の育成

全国学校安全教育研究会会長

東京都葛飾区立花の木小学校長 井口信二

平成23年3月に起こりました東日本大震災は、被災地のみならず全国の学校にさまざまな影響を及ぼしました。このことにより、私たち学校関係者は、今まで学校で行われていた安全教育を見直し充実させていくことが大きな課題となっております。

国は、昨年三月に中央教育審議会の学校安全部会の答申をまとめ、これからの学校安全のあり方について示しました。また、平成二十四年四月に閣議決定された「学校安全の推進に関する計画」において、学校における安全指導がより系統的・体系的におこなわれるように、安全教育のための時間を確保することが求められています。また、避難訓練については、地域や学校の実情を踏まえ、より実践的に行うこと、緊急地震速報を活用したり、教師の指示で行動するだけでなく児童生徒が自ら考えて行動したりすることが求められています。

本研究会では、巨大地震をはじめとする様々な災害・事故を想定し、子どもたちが「危険を予測し、回避する能力」や「自らすすんで安全な環境をつくる能力」を身につけることができるような研究を続けています。また、全国の優れた実践や取り組みの情報を紹介したり、大学などの研究機関と連携したりしながら、これからの学校安全のあり方を追求しています。今後とも、ご理解とご協力をよろしく願います。



実際の場面で「動ける」ような訓練を

東京都学校安全教育研究会会長

東京都世田谷区立塚戸小学校長 永山満義

阪神淡路大震災の後、防災グッズや保存食が飛ぶように売れ、多くの人々がいつくるかわからない地震に備えました。それから16年後、私たちの危機感が少し薄れたころ、今度は東日本大震災が起こりました。やはり、防災グッズや保存食がよく売れました。それからまた3年が経とうとしています。今でも余震が続き、東日本の復興もまだまだ多くの課題が残されています。テレビや新聞では、次の巨大地震についての番組や記事が、私たちに警告を発し続けています。日本に甚大な被害を与える巨大地震は、もういつ起こっても不思議ではないというところまできているようです。

先日、本校で防犯訓練を行いました。不審者が2年生のいる教室に入ってきて、怒鳴り散らすという想定です。不審者役の警察官は、子どもの発達段階に配慮し、「俺の家に石を投げたのは誰だ！この中にいるだろう！」と、実際に想定される場面よりは少しソフトな感じで迫ってきました。女性担任は、子どもたちを不審者より遠いドアから隣のクラスに行くように指示し、自分は不審者を刺激しないようにずっと対応をし続けています。その担任は、応援がかけつけるまでの約2分間、とても時間が長く感じ、怖かったと後で話していました。事前に十分に打合せをしても、しかも不審者役が警察官だと分かっているにもかかわらず、実際はなかなか思うような行動がとれません。これが巨大地震だったらどうでしょうか。突然激しい揺れに襲われ、天井は落ちてくる、壁が崩れる、戸棚は倒れる、ガラスは割れる、電気は消える、悲鳴や叫び声が飛び交う……。そのような状況で、冷静になって子どもたちに指示が与えられるのでしょうか。日頃の訓練は、そのような状況をイメージして行うことが大切です。そうすることによって、今までのやり方で果たしてよかったのかという、新たな課題が見えてくるはずです。頭で「わかる」だけでなく、「動ける」ようになる訓練が必要なのです。

災害を生き抜く力を身に付けるために
—東日本大震災の教訓を踏まえて—
岩手県教育委員会 森本 晋也

発表では、東日本大震災の教訓を踏まえ、これからの防災教育のあり方について考えてみたい。具体的には、震災の前年度まで防災教育の担当者として携わっていた釜石市立釜石東中学校の避難状況と震災前の実践から改めて震災の教訓を整理したい。さらに、震災後の県内の実践事例も踏まえながら、これからの防災教育のあり方について考えたい。

釜石東中学校では、「自分の命は自分で守ること」、「助けられる人から助ける人へ」を目標に、防災教育プログラム「EASTーレスキュー」を企画し、「小中合同避難訓練」や「防災ボランティアスト」(生徒会活動)、「てんでんこ」(1学年総合)などに取り組んだ。また、震災後、県内では、心のケアと防災教育を組み合わせた取組や学校と家庭・地域と連携した取組、学校や地域の実情に応じた取組、震災の教訓を語り継ぐ取組などが行われている。これらの中からいくつか実践例を紹介し、震災の教訓を踏まえた、これからの防災教育のあり方について示し、皆様からご指導やご意見等をいただき、これからの本県における防災教育の充実を図っていききたい。

「長野県の学校における防災教育について」
長野県教育委員会事務局保健厚生課
指導主事 松村真一

本県では、これまで「学校保健・安全・給食指導資料」(平成17年、平成23年改訂)、「危機管理マニュアル作成の手引き」(平成24年)、「防災計画見直しの手引き」(平成24年)を作成・配布するなど、学校における防災管理・防災教育等の推進に努めてきました。

平成25年3月には、文部科学省等における防災教育見直しの内容も踏まえ、学校における防災教育の一層の充実を図り、子どもたちの防災意識の向上に資するため、授業等で活用できる「学校における防災教育の手引き」を作成、配布しました。本手引きは、本県における防災教育の普及、促進を図るため、次の3点に留意した内容になっています。

- ・防災教育の基本として、本県で過去に生じた自然災害を知ること、現在の本県の自然環境を理解する。
- ・自然災害の取り扱い内容は、教科横断、総合的なものであり、各教科、総合的な学習の時間等、様々な機会を利用する必要がある。
- ・小学校、中学校、高等学校、特別支援学校など、児童生徒の発達段階、また、学校や地域の特色に応じて、防災教育を進めていく。

学校現場は、防災教育以外にも数多くの課題を抱え、多忙を極める状況にあります。本手引きの活用等により、防災教育を受けた児童生徒等が大人になって社会の中心を担い、地域の防災力を高めて行くことを願い、防災教育の充実に向けた取組を推進していきたくと考えています。

千葉県における防災教育
—モデル校の実践を通して—
千葉県教育庁教育振興部学校安全保健課

千葉県教育委員会では、災害に強い学校・地域づくりに向けた防災教育の在り方を探るとともに、自助・共助の意識の下に、的確に行動できる人材を育成することを目的として、平成19年度からモデル校を指定し、学校と地域が連携した防災教育事業に取り組んでおります。

平成25年度につきましては、震災後に実施した防災教育調査の結果や昨年度のモデル校の課題をふまえ、「津波からの避難」、「帰宅困難・引き渡し」、「避難所対応」、「防災ボランティア」といった4つの課題に対応したモデル校を8校指定し、各モデル校の取組を他校に公開しております。

各モデル校においては、学校、教育委員会、市町村防災部局や、保護者、地域住民等を構成員とした連絡協議会を設置し、学校で行う防災授業や防災訓練等について、意見交換できる場を設けています。また、防災に関する専門家を講師として招き、モデル校の取組についての指導・助言をいただき、より実践的な取組になるよう努めております。

県教育委員会ではモデル校や特色ある学校の実践をまとめ、平成25年3月「学校における防災教育事例集」を発行し、県教育委員会ホームページに掲載しております。

今後とも、児童生徒の発達段階に応じた防災対応能力の向上と、地域住民との連携を深める取組を進め、学校と地域が一体となった防災教育の推進に努めて参ります。

愛媛県における防災教育
愛媛県教育委員会保健体育課

東日本大震災の教訓や、近い将来発生が予想される南海トラフ巨大地震に備え、学校における防災教育・防災管理を進めるため、平成24年度から、児童生徒等の発達段階に応じた教育を展開する等、学校の総合的な防災力の強化を図っています。

平成25年度は県内3市町において、地域と学校が一層連携を密にし、「主体的に行動する態度」を育成するための教育手法や避難行動に係る指導方法の開発・普及等、より実践的な取組について研究するとともに、学校防災マニュアルの見直しを図るため、愛媛大学の5名の先生方を学校防災アドバイザーとして県内全20市町に派遣し、防災専門家としてのタイムリーな知見を学校現場や市町の関係機関等にアドバイスいただきました。

また、全ての学校に設置している防災管理担当者を対象とした研修会を開催する等、教職員の資質向上にも努めているところです。

今後とも、学校、家庭、地域が一丸となった取組を推進することにより、子どもたちが日常生活においても状況を主体的に判断し、自らの命を守ることができるよう、防災教育の更なる充実に取り組むこととしています。

新教科「生きぬく科」創設への取組

日野市立平山小学校 校長 五十嵐俊子

本校は、平成25年度より4年間の文部科学省研究開発学校の指定を受け、災害安全について系統的・体系的に学ぶ新教科「生きぬく科」の創設を目指して研究開発を進めている。同時に、全教科・領域で、従来の一斉指導的な授業から協働型・双方向型の授業革新を行い、生き抜く力を育成するための新たな学びに取り組んでいる。さらに、生き抜く力を育成していくための新たな学びの達成度を評価する方法として、基礎的な知識を測るペーパーテストと、技能や行動の変容を測るルーブリック、コンピュータを活用した状況設定問題を開発している。

研究指定1年次の今年度は、教育課程については変更することなく、次年度以降の教育課程を検討するために、既存の全教科・領域の中から防災に関連のある内容の抽出と、モジュールの時間「トライタイム（午後の授業開始までの15分間）」を実施した。また、全教科・領域において、児童主体の新たな学びの実現をめざしてきた。

研究開発の実施により明らかになったことは、児童は、どんな危険があるのかを深く考えたり、その場で危険を回避する行動を判断する力が確実に高まっていることである。（児童へのアンケート調査結果、日々の行動観察）同時に、保護者の意識の変容も見られた。また、本研究に取り組むことで、教師自身も、いざという時の危機管理意識が高まるとともに、新たな学びを実現するための指導方法の改善と防災に関する知識とスキルの習得に向けて、日々意欲をもって研究に取り組んでいる。

次年度は、トライタイムの実践をもとに、①防災に関する基本的な知識・技術を組み合わせた学習活動を作成し、②主体的・協働的・創造的な新たな学び方を取り入れて、「生きぬく科」の実践を行う。

なお、研究成果は、次の日時で公開する予定である。

- ・「新たな学び」の創造を目指した「未来の教室」の公開研究会：平成26年2月28日（金）
- ・研究開発学校中間報告会（指定2年次）：平成27年2月20日（金）



文部科学大臣表彰

このたび、前・全国学校安全教育研究会会長（現・鎌倉女子大学講師、板橋区学校防災・安全教育専門員）矢崎良明先生が、平成25年度学校安全の分野で文部科学大臣から表彰されました。「中央教育審議会学校安全部会委員」、「東日本大震災を受けた防災教育・防災管理等に関する有識者会議委員」など、安全教育に関する文部科学省の多くの委員を務められました。また長年、全国学校安全教育研究会の役員として本会の発展に貢献されました。受賞を祝し、皆さまに紹介させていただきます。



「ぜひ！ご活用ください！」 気象庁作成の防災啓発ビデオの紹介

・「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう！」

春から夏にかけては、積乱雲（入道雲）が急発達しやすくなります。積乱雲は「急な大雨」「雷」「竜巻」などの激しい現象を引き起こし、これらの現象によって毎年のように死傷事故が起きています。

これらの現象から身を守る方法を知っていただくため、ドラマ仕立ての「これはあぶない！被害編」（6分）と「これなら安全！解説編」（12分）の2部構成による防災啓発ビデオ「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう！」を作成しました。

「これはあぶない！被害編」では、晴天に油断した子供達が突然の落雷や竜巻などに次々と巻き込まれてしまいます。視聴することで、なぜ子供達は危険な目にあってしまったのかを考えるきっかけを提供します。

「これなら安全！解説編」では、被害編と同じドラマを再現しながら、積乱雲が近づいてきたサインがどこにあったのか、どうすれば身を守れるのかをCG博士が実験映像とともに分かりやすく解説します。

本ビデオには、教師の皆様が授業で使いやすいよう、「映像資料集」「児童用ワークシート」「学習指導案」なども添付しています

・「津波からにげる／津波に備える」

東日本大震災では、津波防災教育や津波からの一人ひとりの自主的な避難の重要性等が改めて認識されました。このため、津波警報や津波防災に関わる知識等を効果的に学べるよう、津波防災啓発ビデオ「津波からにげる」（小学生向け）と「津波に備える」（中学生以上向け）を作成しました。

「津波からにげる」は、東日本大震災における津波避難のアニメーションや避難した先生や生徒のインタビュー、津波の知識のクイズ等から、自ら判断して避難すること、日頃から備えておくことの大切さ等を学ぶことができます。また、先生方向けの「解説ビデオ」や、資料集として、津波の実験映像、避難訓練の映像等も収めています。さらに、授業等でのビデオ視聴後に復習できる「ハンドブック」も併せて作成しています。

「津波に備える」は、CGやシミュレーション映像等により津波発生のしくみや特徴を理解し、体験者のインタビューなどからどのように避難するかを知るという内容です。また、授業する際に参考として欲しい関連知識や、地域の取組みについても添付しています。

防災啓発ビデオ映像及び添付資料はDVDに収録して全国の小中学校に各1枚配布しています。また、お近くの气象台から貸出も行っている他、気象庁ホームページに掲載

(http://www.jma.go.jp/jma/kishou/fukyu_portal/index.html) しています。



役	氏名	所 属	
事務局	池田 實	元安全研究会長	
同	矢萩 恵一	学校安全教育研究所	
園	澤野 明夫	さいたま市立土合公民館	
校	同	矢崎 良明	板橋区教育委員会庶務課
校	会計	渡部佳代子	江東区立みどり幼稚園
校	監 事	角田 成隆	足立区立東綾瀬小学校
	同	本間 和久	文京区教育センター

役職	氏名	所 属
副部長	津田 昌明	荒川区立汐入小学校
同	西原 洋一	品川区立御殿山小学校
同	木間 東平	葛飾区立宝木塚小学校
同	伊東 悌夫	台東区立金竜小学校
同	松本 麻巳	足立区立鹿浜第一小学校
同	竹下 君枝	都立新宿山吹高等学校
同	原 洋子	文京区立誠之小学校
同	濱田 良平	世田谷区立桜小学校
広報部長	川田 辰男	板橋区立志村第三小学校
副部長	濱脇 哲也	板橋区立蓮根小学校
同	下田美穂子	文京区立窪町小学校
会計部長	鳥塚 恵子	文京区立根津幼稚園
副部長	山元 敬子	世田谷区立松原小学校
監 事	角田 成隆	足立区立東綾瀬小学校
同	本間 和久	文京区教育センター

次 長	黒澤 聡子	江東区立ちどり幼稚園
同	高野 富	西東京市立保谷小学校
同	渡邊 光一	葛飾区立花の木小学校
同	三浦 博文	板橋区立高島第五小学校
研究部長	原野 隆	板橋区立緑小学校
副部長	飯塚 慶子	足立区立元宿こども園
同	富田美穂子	足立区立花畑西小学校
同	平野 哲士	北区立十条台小学校
同	伊藤 進	大田区立赤松小学校